

有田市 魅力発信プロジェクト No.1

掲示板から広がる輪

有田市魅力発信プロジェクトとは、京都市の龍谷大学生による、有田市の『当たり前』の中に隠れている『魅力』を発掘し、発信していく取り組みです。

彼らもつ多様な視点【都会の視点・若者の視点・市外の視点】を生かし、私たちの日常の中にある風景や食べもの、伝統文化や行事、何気ない習慣などさまざまなジャンルからその魅力を発掘し、発信していきます。今回は有田市の南西にある矢櫃地区取材してきました。



坂の上からの風景

▽はじめて訪れた矢櫃

有田市の南西に位置する矢櫃地区。坂に沿うようにして家々が立ち並んでいるのだが、その坂の傾斜は想像以上に急なもので、歩いて上り下りをするだけでも少し息を切らしてしまう。住民の方は原付バイクを持っている方が多いようである。町を歩いていても、たびたびバイクに乗った住民の方を目にしたが、急な斜面をバイクでびゅーんと上ったり下りたりする様子、新鮮だった。そしてなんと、いつてもその坂の一番上から見る景色。キレイな海と矢櫃の町

並みが見事にマッチし、自然と調和したその姿は大変美しいものであった。

▽広がる輪

矢櫃地区では昔から、「区」に寄付をするという風習がある。どのようない機会に寄付をするかという、例えば結婚が挙げられる。結婚する際に、今まで地区に育ててもらった感謝の気持ちを込めて区に寄付をするそう。



掲示板

矢櫃地区は人口が100人余りの小さな地区であり、そのため誰かが掲示板を見ればそれがやがて口伝で住民の皆に知れ渡っていく。話によると、突然仕事中に「結婚祝い」を持ってくる（結婚した本人はその方に直接伝えていないが、掲示板を見て慌てて持ってくる）というのが、最近でもあったようだ。

▽当たり前からつながり

矢櫃地区自治会長の古川浩一さんは、このような風習が現在も残っていることが有田の他の地区では珍



古川浩一さんと

しいことを初めて聞いた様子で、大変驚かされていた。古川さんの様子から、矢櫃のみなさんはこの風習をずっと「当たり前」と思っていて、「当たり前」だと受け取られた。名前が張り出されるといった掲示板は、矢櫃地区の人々にとって身近でかつ大きな存在であるということを感じることができた。他の地域にはないこの風習は、矢櫃地区の人のつながりを象徴しているものなのである。地区の人々の結びつきが強いからこそ、口伝で広がり皆に知れ渡っていくのではないかと思う。掲示板を通じた矢櫃の人々のつながりはとても強いものであると感じた。

矢櫃のまちを歩いていると、

出会った住民の方から「おめでとー」と声をかけられる、声をかけてきた方も掲示板を見たらうちの一人である。こんな、あたたかい当たり前がこの地区には隠れている。つぎは誰が、みんなから「おめでとー」と声をかけられることになるのだろうか。

龍大生スナッフ



矢櫃の中を散策!

広告

お魚勉強会に込めた思い

5月4日(水)に行われた「お魚勉強会」は今年も大盛況! 昨年度で有田真島漁業協同組合青年部の部長として活動し、お魚勉強会を立ちあげた尾藤文紀さんと、今年部長となり、青年部を引き継いだ上野山貴也さんにお話をうかがいました。(本文中敬称略)



尾藤 文紀 さん

こちらで獲れる魚はほんまにうまい それを知って欲しい

お魚勉強会のはじまり 尾藤 2年前に開催された「わいわいがやがやあがらのまちを皆で考えよら会」に参加し、そこで地域を盛り上げるイベントについて考えました。自分なら魚を使った企画ができるなと思ったのがはじまりです。たくさんの方が賛同し、協力してくれたおかげで、4ヶ月後には「文紀にいやんのお魚勉強会」が実現しました。

太刀魚漁獲量日本一を誇る有田市ですが、実際市場にきたり、漁師と話したり、魚と

しく、他の漁師にお願いして漁に出てもらいました。おかげでたくさんのお魚を確保することができ、とても感謝しています。

お魚勉強会のこれから

上野山 参加人数も増えており、子どもたちから来年のお魚勉強会を楽しみにしているという声もあります。来年も楽しいイベントにしたいですね。有田の良さを生かしたイベントが他にも企画されたら、さらに有田市の盛り上がりが出てくると思います。有田で有田の良さを生かしていきたいですね。尾藤 勉強会を続けていくこ

お魚勉強会にて

とで、いつか参加した子どもが大人になって、地元の魚はおいしい、と継いでいってもらえたらうれしいです。多くの人に魚を好きになってほしいですね。



▲お魚とれた!

◀焼きイカを手にとりピース

イカは苦手やけど、このイカはめっちゃおいしい!



上野山 貴也 さん

有田の良さを生かしてのけたら

広告